

本日より
チケット
発売開始

金沢 21 世紀美術館 ステージ・イベント



「なまくら刀」寺内純一 1917

まるびいシネマ・パラダイス！ vol.1

白黒からカラーまで… フィルム、綺麗。

蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集

11月8日(土)～11月9日(日)

会場：金沢21世紀美術館シアター21

デジタル化が進む昨今、フィルム上映の機会は急速になくなりつつあります。金沢21世紀美術館は、今や稀少になりつつあるフィルム映写機を備えたシアターをもち、ここでのフィルム上映を続けています。

「まるびいシネマ・パラダイス！」は、フィルムに魅せられたデジタル世代の学生たちとフィルム全盛期に映画に親しんだ世代が交流しながら、企画・運営するプログラムです。映画史に残る名作をデジタルではなく、フィルムで上映することにこだわり、併せて、上映技術の継承にも取り組むことで、金沢におけるフィルム上映の環境を市民に提供し、次代につないでいくことを目的としています。

第1回の今回は、東京国立近代美術館フィルムセンターが復元した貴重な35ミリフィルムのプログラムのなかから大正～昭和の長編・短編あわせて9つの名作を上映し、フィルムセンター学芸員のお話も聞きながら、フィルムの魅力をご紹介します。

※ この映画上映とトークイベントについて、貴媒体にて広く告知、ご取材頂けますようお願いいたします。
※ トークイベントのご取材をご希望の方は、事前にご連絡ください。

<取材申込み/問い合わせ先>

金沢21世紀美術館

広報担当：中山（広報室） 事業担当：田村、野村（交流課）

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802

<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp

開催概要

【名称】まるびいシネマ・パラダイス！vol.1 「白黒からカラーまで…フィルム、綺麗。」
蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集

【日程】2014年11月8日（土）、11月9日（日）

【会場】金沢21世紀美術館 シアター21

【料金】<全席自由>

- ・1回鑑賞券 一般=800円/大学生以下=300円（*購入時、学生証提示）
 - ・フリーパス 一般=2,000円/大学生以下=1,000円（*購入時、学生証提示）
- ※フリーパスは50名限定、ミュージアムショップでの前売のみ取扱い

【チケット取扱】10月8日よりチケット発売開始

金沢21世紀美術館ミュージアムショップ TEL 076-236-6072
金沢美術工芸大学売店（かゆう堂） TEL 076-222-0802

【託児サービス】※未就学児の入場はご遠慮願います。託児サービスをご利用下さい。
有料・要申込（お問合せ TEL 076-220-2815）

【主催】まるびいシネマ・パラダイス！実行委員会
金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕
東京国立近代美術館フィルムセンター
一般社団法人コミュニティシネマセンター

【協力】金沢美術工芸大学、シネモンド、アカデミア金沢、
株式会社フォーライフミュージックエンタテイメント、松本夏樹

【助成】澁谷学術文化スポーツ振興財団（予定）

【お問い合わせ】金沢21世紀美術館 交流課 TEL 076-220-2811

★プログラム（各回入替制・15分前開場）

11月8日（土）	
12：30～	「黒ニャゴ」作画：（3分、1929年、千代紙映画社） 「幕末太陽傳」監督：川島雄三（110分、1957年、日活）
15：15～	「茶目子の一日」監督：西倉喜代治（7分、1931年） 「くもとちゅうりっぷ」監督：政岡憲三（15分、1943年、松竹動画研究部） 「緑はるかに」監督：井上梅次（90分、1955年、日活）
18：00～	「羅生門」監督：黒澤明（88分、1950年、大映京都）
11月9日（日）	
11：30～	「なまくら刀（塙内名刀之巻）」作画：寺内純一（1分、1917年、小林商会） 「忠次旅日記」監督：伊藤大輔（71分、1927年、日活大將軍）
13：15～	パネルトーク（80分）
15：00～	「幸福」監督：市川崑（105分、1981年、フォーライフ・東宝映画）

★パネルトーク（入場無料※ただし映画チケットまたは半券が必要）

11月9日（日）13：15～

ゲスト：とちぎあきら（東京国立近代美術館フィルムセンター 主任研究員/映画室長）

デジタル化が進み、フィルムで上映される映画を観る機会が本当に少なくなりました。今回のトークでは、フィルム上映やフィルム保存の意義について、ゲストと地元有識者、そしてデジタル世代である若者が語り合います。

★上映作品について

【長編作品】

「幕末太陽傳」



監督：川島雄三

出演：フランキー堺、南田洋子、左幸子、石原裕次郎、芦川いづみ
白黒／110分／1957年／日活

一文無しのくせに遊郭で遊んだ居残りさん(フランキー堺)がそこでおこる事件を小気味好く解決していくドタバタ喜劇。遊女のお色気に笑いあり涙あり。石原裕次郎達イケメン侍との対決も必見。

(執筆者：上原勇希)

「緑はるかに」



監督：井上梅次

出演：浅丘ルリ子、高田稔、フランキー堺、岡田真澄
カラー／90分／1955年／日活

コニカラー・システムで撮影された初の長編劇映画。科学者である父の研究の秘密を狙うスパイ団に拉致された両親を救おうと奮闘する少女と仲間のお話。開始早々繰り広げられる空想の世界に「なんだこの映画!？」と思わされ引き込まれること間違いなし。セットや衣装からカラー映画を作ることの喜びが溢れていて、とてもかわいらしく綺麗な映画です。(執筆者：小野寺加純)

「羅生門」



監督：黒澤明

出演：三船敏郎、京マチ子、森雅之、志村喬
白黒／88分／1950年／大映京都

黒澤明の投じた超変化球が海外で絶賛され、大ホームランとなった!本作のキーワードは「人間は嘘をつく」。語り手によって異なる回想シーンやギラギラの太陽が公開当時は話題となったそうだが、僕にはむしろ、巫女を通して死者が話したり、彼らの嘘をつく目的が単に面子を守るためだったり、あまり映らないのに羅生門のセットが豪華なことのほうが斬新。(執筆者：岡本和大)

「忠次旅日記」



監督：伊藤大輔

出演：大河内傳次郎、中村英雄、沢蘭子、伏見直江
無声・染色／71分／1927年／日活大將軍

1927年、公開当時は大ヒット&批評家絶賛で、その後の日本映画の歴史を変えたと言われたそう。ただ、肝心のフィルムが行方不明になり、実際に作品を見た観客しかその素晴らしさがわからない

「幻の作品」となっていた。しかし、1991年に広島県のとある民家からフィルムが発見され、それが本作のものであると判明した。

(執筆者：森田裕介)

「幸福」



監督：市川崑
出演：水谷豊、永島敏行、谷啓、中原理恵
シルバーカラー／105分／1981年／フォーライフ=東宝映画

仕事と家庭によって生じる人間の二面性。水谷豊演じる主人公村上刑事とその周辺を通して浮かび上がる、現代における幸福とは。シルバーカラーによる制作で現代社会の雰囲気表現されています。
(執筆者：中谷沙貴)

【短編作品】



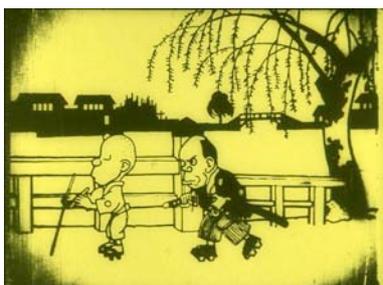
「黒ニャゴ」
作画：大藤信郎
アニメーション／白黒／3分／1929年／千代紙映画社



「茶目子の一日」
監督：西倉喜代治
アニメーション／白黒／7分／1931年／千代紙映画社



「くもとちゅうりっぷ」
監督：政岡憲三
アニメーション／白黒／15分／1943年／松竹動画研究部



「なまくら刀」
作画：寺内純一
無声・染色／1分／1917年／小林商会